

ま 麻疹のワクチンは忘れずに受けてください

麻疹（「はしか」とも呼ばれます。）は、麻疹ウイルスによって起こる感染症です。約10日間の潜伏期間の後、発熱、咳、鼻水のようなカゼ症状が数日間続き、その後、高熱と体中に赤い発疹が出てきます。別の病気（合併症）に同時にかからなければ、7～10日後に回復します。合併症は、中耳炎や肺炎で、まれに脳炎を起こすことがあります。

麻疹ウイルスは、非常に感染力が強く、その感染力はウイルスの中で最強とされます。例えば、麻疹患者と同じ部屋にいただけで感染（空気感染）します。当然、飛沫感染・接触感染でも感染します。

麻疹は、手洗い・マスクでの予防はできません。麻疹ウイルスは感染力が強いため、うつされないようにするのではなく、感染しても発症しないように、麻疹ワクチンを接種するしかありません。しかし、ワクチンを接種できない人もいます。例えば、新生児・乳児や妊娠女性等です。そういう人たちが麻疹ウイルスに感染することがないよう、社会全体のワクチン接種率を高めることが必要です。その目標として、社会全体でワクチン接種率95%以上が目標とされていますが、奈良県では92.9%（平成26年）と下回っているのが現状です。また、最近は成人の麻疹患者の割合が増加しています。

麻疹が怖いのは、合併症だけではありません。

亜急性硬化性全脳炎（subacute sclerosing panencephalitis : SSPE）

SSPEは、麻疹に感染してから5～10年の潜伏期間の後に発病します。治療法は確立されておらず、発病後は数か月から数年で神経症状が進行し、全大脳機能を喪失して死に至る予後不良の病気です。

SSPEを発症するのは、麻疹にかかった人の数万人に1人とされます。しかし、1歳未満の乳児期や免疫機能が低下している人が感染した場合はもっと多く、おおよそ8000人に1人とされています。男児にやや多く、潜伏期間は平均7年ですので、SSPEを発症するのは学童期が多いことになります。

SSPEの悲惨さを、SSPEのお子さんを持つ方が記事にされています。

「SSPEの悲惨さと青空の会の思い」（IASR 2015年4月）



<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2306-related-articles/related-articles-422/5640-dj4228.html>

予防接種の大切さを訴えるために書いておられますが、子どもを持つ親なら、涙無くして読めない内容です。是非記事を読んでいただき、予防接種の大切さをご理解いただくとともに、ご自分のお子さんだけで無く、社会全体での予防接種率95%以上を達成できるように、各自努めていただけたらと考えています。

なお、**麻疹ワクチンの定期接種は、1歳になったら1回、小学校入学前の1年間にもう1回**で、麻疹ワクチンと混合接種します。しっかりした免疫をつけるために、2回の接種が必要です。また、定期接種の対象者だけではなく、医療・教育関係者や海外渡航を計画している成人も、麻疹の罹患歴や接種歴が明らかでない場合はワクチン接種を検討してください。

予防接種に関する事は、市町村もしくはかかりつけの医療機関におたずねください。

（感染症情報センター）